



国家知识产权局

China National Intellectual Property Administration

AI関連発明の審査

November, 2019

目次

仮訳

01

AI関連発明

02

事例1

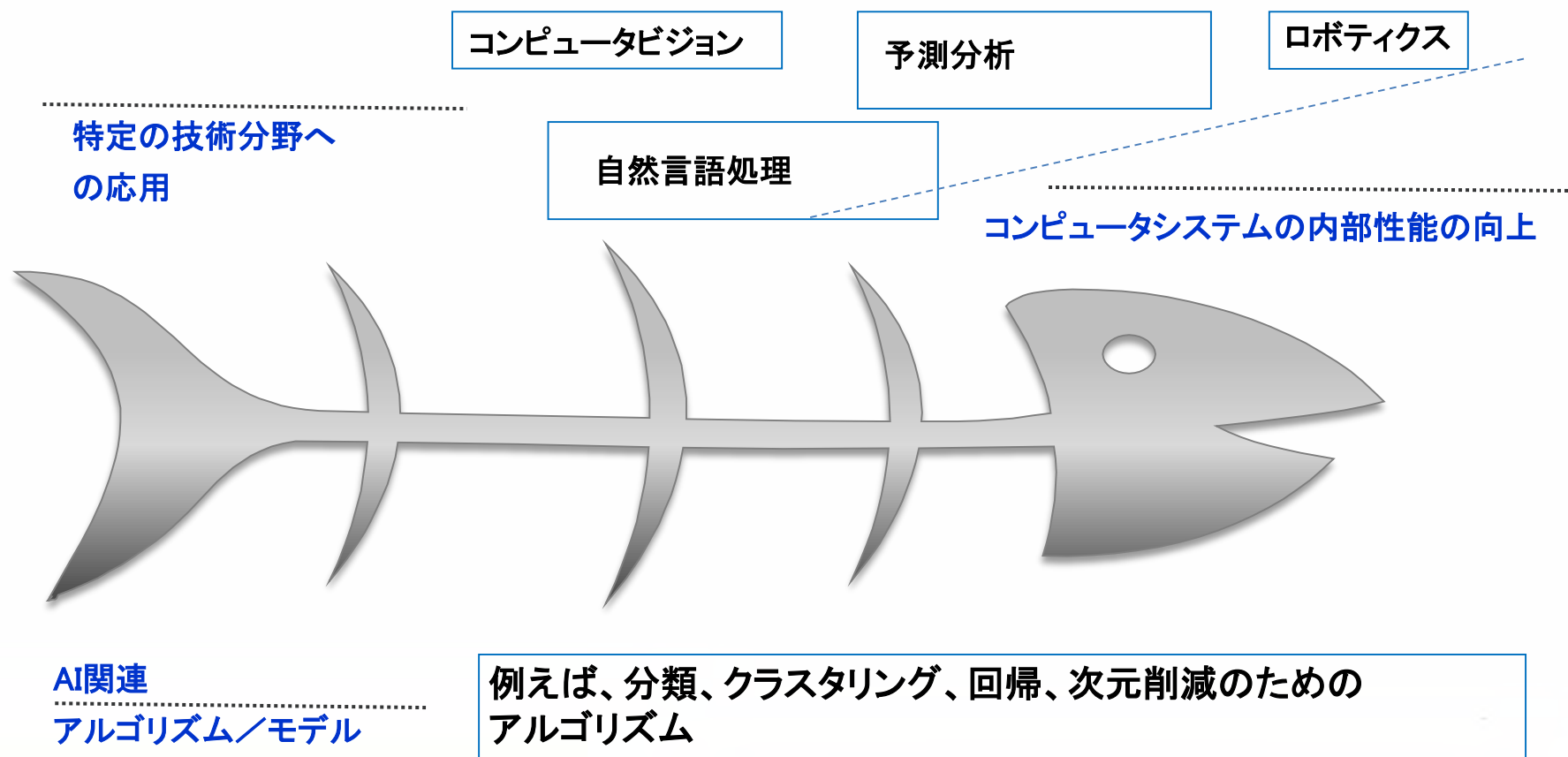
03

事例2

04

まとめ

AI: 人間の知能をシミュレーション、拡張、拡大するもの



目次

仮訳

01

AI関連発明

02

事例1

03

事例2

04

まとめ

[事例1 特許適格性]

発明の名称:

宿泊施設の評判を分析するための学習済みモデル

請求項の記載:

宿泊施設の評判に関するテキストデータに基づいて、宿泊施設の評判を定量化した値を出力するよう、コンピュータを機能させるための学習済みモデルであって、

.....

第25条第1項: 除外対象

- (1) 科学上の発見;
- (2) **知的活動の規則及び方法;**
- (3) 疾病の診断及び治療方法;
- (4) 動物と植物の品種;
- (5) 原子核変換方法を用いて取得した物質;
- (6) 平面印刷物の図案、色彩又は両者の組み合わせによって作成され、主に表示を機能とする設計



例

仮訳

- 組織、生産、商業的活動、経済などを管理する方法とシステム
- 数学の理論と変換の方法;
- 統計、会計、簿記の保存の方法

請求項が単にアルゴリズムや数学的コンピューティングに関係してるだけならば、その請求項は知的活動のための規則及び方法の範疇にあるものとして分類される。

第25条第1項第2号: 知的活動の規則及び方法



(1) 知的活動の規則及び方法(RMMA)にのみ関係している請求項

(2) 名称を除いてRMMAによって定義されている請求項



請求項の全体の内容をみて、請求項に、RMMAの事柄だけでなく、技術的特徴が含まれている場合、当該請求項は、第25条によって除外されるべきではない。

第2条第2項：発明とは何か

「発明」とは、製品、方法又はその改善に対して行われる新たな**技術方案**を指す。

- 技術方案とは、技術的課題を解決するために自然法則を適用する**技術的手段の集合**のことである。
- **技術的課題**を解決するために**技術的手段**を採用せず、それによって自然法則に従った**技術的效果**を何ら達成しない技術方案は、第2条第2項で定義されるものとしての特許発明の対象を構成しない。

➤ 知的活動の規則及び方法を含む請求項

仮訳

請求項に記載された特許発明の対象



ステップ 1

請求項は何かしらの技術的特徴を有する？

NO



請求項に記載された特許発明の対象は、**第25条第1項**における知的活動の規則及び方法である。

YES



ステップ 2

技術的課題を解決するために技術的手段を採用し、それによって自然法則に従った技術的効果を達成している？

NO



請求項に記載された特許発明の対象は、**第2条第2項**における技術方案ではない。

YES



ステップ 3

新規性と進歩性の判断

分析

請求項1に関する限りでは、そのモデルがテキストデータをどのように処理しているか、すなわち、どのように上記の入力データを学習及び最終結果の計算に適用しているかを明らかにしていない。その上、評価結果からの星の数(評判)の決定には、自然法則が反映されていない。

したがって、我々は請求項1は第2条第2項に従っていないと考えている。

同様の理由で、請求項2と請求項3も第2条第2項の条文に従っていない。

目次

仮訳

01	AI関連発明
02	事例1
03	事例2
04	まとめ

発明の名称

水力発電量推定システム

仮訳

[請求項1]

ダムの水力発電量推定システムであって:

情報処理装置によりニューラルネットワークを実現され、

そのニューラルネットワークは入力層と出力層とを備え……

[請求項2]

請求項1に係る水力発電量推定システムであって、

前記入力層の入力データに、さらに、前記基準時刻より過去の時刻から当該基準時刻までの所定期間の上流域の気温を含む、

水力発電量推定システム。

基準のPart II, Chap.4に開示されている 課題解決アプローチ

ステップ 1

最も密接な先行技術を決定する

ステップ 2

その発明によって実際に解決される技術的課題と発明の区別される特徴を決定する

ステップ 3

請求項に係る発明がその分野の技術者にとって容易に思いつくものであるかどうかを決定する

分析

仮訳

➤ 引用文献1:

情報処理装置により重回帰分析を行う水力発電量推定システム

➤ 差異

請求項1に係る発明は、回帰式モデルによる手段ではなく、入力層と出力層を備えるニューラルネットワークによる手段によって、水力発電量の推定を実現している

請求項1の分析

その分野の技術者にとって、学習済みのニューラルネットワークを用いて、過去の時刻の連続的データの入力に基づいて、未来の出力量を推定する処理が実現されることがよく知られているならば、引用文献1から、進歩性は認められないだろう。

そうでなければ、請求項1に係る発明は進歩性を有する。

請求項2の分析

考慮すべき事項:

- その分野の技術者は、推定量の精度が著しく改善され则认为るかどうか
- 先行技術において気温パラメータを選択することの技術的示唆があるかどうか



発明の詳細な説明の起草

アルゴリズムの特徴を含む特許出願の明細書には、技術的課題を解決するために、発明によって採用された方案が明確かつ完全に記述されるべきである。

アルゴリズムの特徴を含ませるときは、具体的技術分野と抽象的アルゴリズムの特徴を組み合わせるべきである。

請求項の起草

コンピュータプログラムに係る発明の出願の請求項は、方法のクレーム又は物のクレームすなわちその方法を実行するための装置として起草されるだろう。

どんな種類の請求項で起草されたとしても、その請求項は、詳細な説明によって裏付けがとれ、発明の技術方案全体を表し、技術的課題を解決するために不可欠な技術的特徴を概説すべきであり、コンピュータプログラムの機能とそれらの機能のみが生み出す効果を推定的に説明するものではない。

請求項の起草

技術方案が、基礎的コンピュータプログラムの手順に完全にに基づいているならば、その請求項は以下のように起草されるだろう

プロセッサによって実行される際に以下のステップを実行することを特徴とするコンピュータプログラムが保存されているメディア



請求項の起草

もし装置のクレームがコンピュータプログラムとハードウェアとを含んでいるならば、その請求項は以下のように起草されるだろう

プロセッサによって実行される際に以下のステップを実行することを特徴とするコンピュータプログラムが保存されている記憶部とプロセッサとを含むコンピュータ装置

目次

仮訳

01

AI関連発明

02

事例1

03

事例2

04

まとめ

- AIに関する請求項である限り、その請求項が知的活動の規則及び方法の事柄だけでなく、技術的特徴も含んでいるならば、当該請求項は、第25条によって特許性が除外されるべきではない。
- 方案が第2条第2項の技術的方案であるかどうかを決定するとき、技術的手段、技術的課題と技術的効果は、考慮されるべき3つの重要な要素であり、組み合わせて考えられるべきである。
- アルゴリズムと知的規則は、技術的課題(特許対象と進歩性)を一緒に解決するために、機能的に裏付けがとれ、技術的特徴と相互作用する限り、考慮される。



THANK YOU !

THANK YOU !